

【トークセッション】

司会

それでは準備が整ったようでございます。私もちょっと席を移らせていただきます。お呼びする前に自主的にお越しくださってありがとうございます。すばらしい。自主的に何でも動かないといけないんですよ、皆さん。

パネリストの皆さんどうぞご登壇ください。どうぞお座りください。

大きな拍手でお迎えください。よろしくお願いいいたします。

前のほうに名前が書いてあると思うんですが。ではご紹介してまいります。

まず、舞台右手から。

株式会社プロトデータセンターから白木享様、本日はよろしくお願いいいたします。

ちょっとプロフィールをご紹介させていただきます。

2009年3月に開設したプロト宜野湾ビルを本拠地として、沖縄県の雇用促進・人材育成に日々奔走されています。

従業員数は現在、およそ350人ということで、大変大きな会社ですね。地元沖縄で採用した若い人材を中心に、ウチナーンチュの、ウチナーンチュによる、ウチナーンチュの為の会社、全国に通用する企業、沖縄一信頼される企業を目指しています。新しいビルがこの近くにあるそうなんですが、ちょうどこのコンベンションセンターから北谷向けに、左手にカタカナで“プロト”と書かれたビルになります。「雇用機会の創出だけでなく、ほかの企業進出の呼び水になるなど県の情報通信産業振興に大きく寄与する」と期待を寄せられています。

そしてそのお隣です。

株式会社OCCから屋比久友秀様、どうぞよろしくお願いいいたします。

屋比久さんは、与那原町のご出身で。東京理科大学大学院修士課程物理学専攻で、それを修了なさった後、1998年にOCCに入社されました。と同時にアメリカにも渡られまして、アメリカフェルミ研究所客員研究員、それから東京大学医科学研究所研究員を経験されて、2006年4月から現在のお仕事に就かれていらっしゃいます。社内、社外共にITの人材育成に力を注いでいらっしゃいます。

そして琉球大学の非常勤講師としてもお勤めでいらっしゃいますので、もしかしたらこの中にその学生さんもいらっしゃるかもしれません。

そして、紅一点ですね。おなじみのシンガー砂川恵理歌さんです。きょうはよろしくお願いいいたします。

2009年2月に発売された、シングル「一粒の種」が、遺言をもとにした、命がテーマの曲で、この曲の制作秘話がNHK制作のドキュメント番組として放送されまして、全国にその感動の輪が広がっています。

豊かな歌声と、それからそのメガネがチャームポイントですよね。テレビ・ラジオで

もおなじみの彼女です。歌手になる前は、介護のお仕事をなさっていたんですね。そんなお話もきょうは伺ってまいります。

そして先ほどトークショーをしていただきました安永さんです。よろしくお願いいたします。

そしてこのコーディネイトも私、宮城麻里子で務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

そしてもう四方ですね、演芸集団F E Cの皆さんです。皆さんどうぞご登壇ください。F E C（あぎじゃび商店）

はいさい。皆さんこんにちは。

固いよ、もっとリラックスしなさい。表情が固い。

今のは聞かないでいいよ。

アギジャビヨー、よろしくお願いいたします。

あのですね、私たちは演芸集団F E Cといいまして、その中で4名で「あぎじゃび商店」という小喜劇をやっているんですけれども、今回グッジョブ運動ということで、皆さん学生ですね。あと高校とか、いろんな専門学校とか大学の先生方もいらっしゃいますけれども、実は私たちは無料で、この劇を就職活動でいろんな不一致とかいろんなミスマッチとかがあるでしょう。それを笑いにかえて、皆さんのところでやろうと思っているんですけれども、無料なんです。チラシ配りましたよね。皆さん手元にチラシありますね。

早いもの勝ちで。

行ける学校の数が決まっているんですよ。ですから早目に一番下の問い合わせに問い合わせをしていただければ、私たち行きますから。一番今離島に行きたい。

行きたいね、夏しに行きたいね。

離島行きたいから、離島から来ていらっしゃる皆さん、いらっしゃいます。いない。

一番遠いところどこですか。辺土名高校。えー、ワンの母校、だれも来ていない。アギジャビヨー、ヤナー。

名護高校は。名護商工はいらっしゃってましたよ。名護高校はいない。

はいわかりました。詳しくはチラシのほうにありますので、ぜひ皆さんお問い合わせしてください。

それから私といさおは、また後ほど、皆さんのところに行って質問がある方、インタビューさせていただきますので、お邪魔したときにはびっくりしないでください。よろしくお願いいたします。

司会

ありがとうございます。

よっちゃんさん、いさお名ゴ支部さん、そしてすぱるたいんづさんのお2人でした。こちらのチラシですね、その後のほうに、マンガでふせぐミスマッチのお隣です。

後ほど、皆さんのところに伺いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、それでは本日のテーマ『これから働くキミたちへ』～天職との出会い方～ということなんですが、天職って、とっとも見つけるのは難しいことだと私も思います。

就職活動中の皆さんにとって、やはりこれは今一番の悩みどころというか、問題ではないかなと思いますが、パネリストの皆さんはいかがだったんでしょうね。まずは、今お話もいただきましたけれども、自分が選ばれた道をとことん邁進した安永さん、今のご自分のお仕事って天職だと思っていらっしゃいますか。

ジュン安永

そうですね、天職というのは、自分で見つけるものではないんだろうなというのが、今思いますと、こういうふうにお伺いして、初めて考えるんですけども、天職というのは、やはりやっていって、やっていくうちにどんどん前に進んで、前に進まないといけない。私が仕事を始めたときに言われたのが、私は最初野球が大好きで、本当はプロ野球で働きたかった。バスケットボール、実はやったこともないです。体育の授業で中学校でやったかなぐらいしかやったことないです。それからバスケットボールにはまっただけなんですけれども、選手だったわけでも何でもなくて、ただバスケットボールのNBAに入ったら、最初に言われたのがエキスパートになれば、30チーム、全部で360人ぐらいいる選手の名前を全部覚えなさいとか、何でも知っているようになりなさい。エキスパートになればと言われたのが天職なのかなというふうに思って、私みたいに手に職がある人間ではなくて、何かをつくれるわけでもないし、何かを直せるわけでもないし、何かを書けるわけでもない人間が生きていけるといったら、コミュニケーションこうやって話をするのがすべてかなとも思いますし、その中で話の話題というので、じゃあバスケットボールの話をしたら、私は絶対だれにも負けませんよとか、アメリカのプロスポーツの話をしたら、私は絶対だれにも負けないという、変な自信ですけどあるんですね。それがやはり自分の天職なのかなと。だからそこまで自信にくるまで自分で努力したというのがあるんですけども、前に前に進み続けて、いろんなことを勉強して、常にハングリーで、嫌なこともいっぱいあるし、楽しいことばかりではないので、それでもやはりどんどん人に負けないぐらいの実力というよりは、自信をつかんだところら辺でようやくこれが天職なのかなというふうに思ったので、楽しいから天職でもないなと思います。

司会

なるほど、自信が持てるから、それが天職かもしれない。

ジュン安永

最初は自信ないです、全く。

司会

なるほど、自信をつけていって、それがのちのち天職になるかもしれないということですね。

では、介護のお仕事をなさっていて、その後全く違う世界に進まれました砂川さん。どちらが天職なんでしょう。

砂川恵理歌

どちらなんですかね。すべてがつながっているなと私は感じていて。

司会

つながっている。介護と歌もつながっていますか。

砂川恵理歌

はい。介護の仕事に就こうと思ったことが、一度歌手になりたいという子供のころからの夢をあきらめて、東京に行ったんですけれども、自分で夢をあきらめるときって、とても苦しいでしょう。つらいでしょう。その中でじゃあ夢をあきらめたら、この後人生どうしていこう、長いけどどうしたらいいんだろうと。すごく不安になったんですね。そのときに何を思ったかといったら、せっかく生きているんだから、人の役に立ちたいなという思いがあったんですね。その思いをたどっていったら介護という仕事があったんですね。

司会

その介護のお仕事をなさりながら、歌手というお仕事もなさっている時期がありましたよね。そのときも、「介護のお仕事があるから楽しく歌えるんです」とおっしゃっていましたよね。

砂川恵理歌

はい、そうでした。その介護の現場で、おじー、おばーと一緒に、おじー、おばーと言ったら本当はいけないけれども、利用者の皆さんと一緒に過ごす中で、本当に生きているということが、当たり前じゃないということ、本当に日々の中で、感じざるを得ない状況なんですよ。その中で自分の道というのを本当に考えさせてくれるし、何より私が大好きな歌の力というのを、毎回教えてくれるので。

司会

おじいちゃん、おばあちゃんの前で歌われる機会なんかもあったんですか。

砂川恵理歌

よくありました。逆に歌手になる夢をあきらめたときよりも、毎日介護の現場で歌を歌っていて、それで皆さんに喜んでもらっていたので、その姿を見て「何かもう一回歌いたいね」と思って、そこがすごく大きい分かれ目ですね。無駄なこと遠回りだったような感じもすごくあったんですけれども、1個1個今は、一生懸命やっているうちに、自分の好きだった夢というものが、本当につながっていった感じがしましたね。

司会

歌手になられる転機というのも、その介護のところから生まれてきたんですね、確か。

砂川恵理歌

そうですね。

NHKのど自慢に出たんですよ。皆さん、日曜日の昼間わかります。見たことあります。何かしーんとしているからだれもいないかねと思った。

そのNHKのど自慢に出たときに、おじーとおばー、職員、おじーとおばーの家族、みんなが笑顔に一瞬でなったんですよ。その前まではインフルエンザでみんなぐたっとしていたんですけども、その光景を見たときに、私が歌うことで、だれかにこうやって喜んでもらえる。その姿がとてもうれしかったですね。それがすごい大きな、もう一回夢を追いかけてようという、大きな私の背中を押してくれましたね。

司会

じゃあどっちも天職。

砂川恵理歌

そうですね、天職というか、自分の歩みたい道には、本当に導いていってもらえるんだなと、人生というものは。天職というのは、あとからきつついてくるのかなと、私も思いましたね。

司会

なるほど、また後ほどたくさんお話を伺わせてください。

さて、続いては人材育成に携わっていらっしゃる立場からお伺いしたいと思います。屋比久さん。既に琉球大学で非常勤講師などもされていますけれども、学生さんと語り合っていく中で、最近の学生さんについては、どんなことを感じられますか。

屋比久友秀

琉球大学で非常勤講師をさせてもらっているんですが、それ以外に弊社のほうで採用面接の担当もさせてもらっております。それと新人研修の責任者というのもやらせてもらっております。という理由で、会社に入る前、入る時、入った後という学生さんを見させてもらっているんですね。そういった中で、面接、最近の学生さんとても上手です。うまい、新人研修、ペーパーテスト、やってもらうといい点数とります。でもチーム戦で新しい仕事やってくださいというのが研修の中であるんですね。それをやると途端にぼろが出てくる。これ何なのかなと。

司会

なんでしょう。

屋比久友秀

考えたら、大学だけじゃなくて、学校教育の中で、先生から教えてもらう。覚える。先ほど安永さんがおっしゃったとおり、覚えて書く、書き出す。アウトプットはとても上手なんですね。ところがいざチームで何かしよう。新しい問題が来たときに、それにとりかかろうといったときに、やったことのないことに対して、多分、経験がないから次に何をしたいかわからないんでしょうね、恐らく。それを答えがない。答えがないものに対して、答えをどうつくりあげていくかという教育が、今の日本というのはされ

ていない。要するに自分で考えて、今、自分に何を求められているのかというのを考えて、じゃあ何をすればいいのかという決断をして、それを行動していくと。そういう教育があまりされていないのかなという感じがしています。

司会

なるほど、またそのあたり、詳しく聞かせていただきたいなとも思いますが。

屋比久さんご自身も、おもしろい職歴をお持ちですね。プロフィールでは、物理学を専攻なさっているんですけども、今はITの人材育成。どういうところで転機がきたんでしょうか。

屋比久友秀

これを話すと、3分ではとてもおさまらないんですけども...

もともと物理学の中でも、天文物理学と呼ばれているものがあって、太陽の爆発現象をコンピューターの中で再現しようという研究をやっていました。太陽の爆発現象って、地球が吹っ飛ばされるぐらいのものなんですね。だから地球上では再現できない。なのでコンピューターの中でやりましょうと。いうので、それをやっていました。コンピューターはあくまでも手段だったんです。ところがコンピューターをやっていくうちに、インターネットの普及が広まって行って、コンピューターの世界というのが、非常に今後将来性あるなという感じがして、コンピューターにどんどんのめり込んでいったんですね。そうすることによって、物理学はあくまで達成するための、物理学のほうが手段になってしまって、コンピューターのほうがメインということで、コンピューターにどんどんのめり込んで行って、今の職業に実は就いているということです。

司会

何か初めは、研究者かなと思ったんですが、その道はどんどん変わって行って、今は学生の皆さんのお世話もするようなところにいらっしゃるということで、やはり夢、目標というのは、自分の人生のいろんなステージの中で変わっていくものなんだなというふうに感じました。

さて、天職に就くためには、具体的にどんな行動を起こしていけばいいかなと思いますか。

屋比久友秀

今ですね、私が会社で仕事をさせてもらっている内容というのは、先ほどの人材育成もそうなんですが、それ以外に会社の中で新しい技術を習得して、それを会社の中に広めていくと。そういうこともやっております。それって、その部署は実は以前はなかったんですね。なくてどうやってやったかという、おのこのエンジニアがそれぞれで新しい技術を習得して学んできた。ところがIT分野というのは、非常に技術革新が激しいです。なので、一人一人がそうやっていくと効率が悪いということで、会社のトップチーム、トップの人を集めて、そこで新しい部署をつくって、そこで技術を習得して広めていく。そのほうが効率的だということを私が提案したんです。会社に対してどれ

だけメリットがあるかというのを説明して、その部署をつくってもらった。今はそのポジションがあるということは、私、非常に自分でやっていて楽しいんですね。新しい技術をどんどん習得して、みんなに教えることもできると。私自身がすごい飽きっぽい性格なものですから、どんどん新しい技術をつくっているのは、まさに今職にいます。そういう部署がなかったのに、つくっていくと。先ほどお二人がおっしゃったとおり、天職というのは、やはり与えられるものじゃなくて、みずから仕事に就いていって、自分の中で作りあげていくものじゃないかなというふうに私も同じように感じています。

司会

はい、ありがとうございます。

さて続いては、経営者の視点から少しお話を伺っていこうと思いますが、白木さん。新しくビルも建設されて、たくさんの方を雇用されていらっしゃるけれども。面接をなさる機会というのも多くあると思うんですが、面接にいらっしゃる受験者の皆さんって、最近こんな方が多いよとか、傾向なんてありますか。

白木享

はい。やはり天職というところの側面からいうと、非常にやはりやってみなければわからないと思うんですね。仕事って。うちの会社自体は、基本的には未経験の方でも、積極的にやはり採用していこうというのが、基本スタンスでありまして、特に私らの会社はデザインの仕事だったり、Webのインターネットの仕事だったり、それからコールセンターもあって、データ入力もあって。システム開発するとか。いろんなバリエーションがあるので、とにかくやはりやってみたいとか。それからいわば楽しく仕事をしてみたいというエネルギーが強い子たちが比較的集まってきていただいている感じですね。それは学生の方はもちろんですけども、例えば主婦の方であっても、例えばお子さんを育てながら、この時間だけはどうしても私働きたいんですとか。基本的には、雇用の機会自体、広げる形をとっていて、それが体の不自由な方であっても、できる限り広いレンジで私らとしてはとらえているので、幅広い方々がどちらかという、私どもの会社に面接にきていただく機会が非常に多いですね。

司会

そんな中で、学生たちもいろんなところをこれから受験なさると思うんですが、天職というものを見つけるときに、天職というところもちょっとくくりも難しいと思いますが、どんなことを基準に選んでいけば、近づけるかなと思います。

白木享

多分ですね。私もそうなんですけれども、さっき安永さんがおっしゃっているように、やはりやってみないとわからなくて、仕事なんていうのは。だから人生とか生きていく上で、多分ここにいらっしゃる若い皆さんもそうだと思うんですけども、多分2つの行動に分けられていて、人間の行動は。

一つは何々したいというウォンツというやつなんですね。だからデートがしたいとか、ご飯が食べたいとか。遊びに行きたいとかという行動。もう1個が何々しなければならぬというやつなんですね。勉強しなくちゃいけないとか。仕事をしなくちゃいけないとか。でもご飯は食べなくちゃいけないと思ってご飯を食べている人はいなくてですね。恐らく「したい」とどれだけ思うかどうかが勝負で、どんな仕事であっても多分、したいかどうかというのがやはり、その仕事がしたいかどうかという気持ちになれるかどうかというのが、一番のポイントなので、まずは就職をするときに、その「したい」という気持ちがどれだけ強い。「しなければならぬ」んだったら、多分、面接に行かないほうがいいと思います。

私はそういうふうに思っていて、もう一つは、それが「したい」というのと。もう1個はやはり仕事というのは一人ではできないので、ですからそこにいる仲間とか、一緒に働く人たちがどんな人たちかというのを、しっかり見ないといけないですね。特に若い方々は、経験がないというのもあるんでしょうけれども、でもそこにいる仲間と一緒にやって、一緒に仕事を成功させようという気持ちが強ければ強いほど、多分オーケーで、そういう気持ちをやはり大切にするのが2点目です。最後は1点だけ、どうしてもお願いがあって、やはり一つの仕事をやるのに、1カ月や2カ月では絶対にわからないんですよね。だから石の上にも3年という言葉が昔からあるように、やはり少なくとも1年半か2年、できれば3年ぐらい、一つの仕事をやはり私はやり続けることが重要じゃないかなと思っていて、そういう意識をして、面接をやったり、その会社を選ぶ。3年間この会社で私は働けるのかな、私は働けるのかというふうに判断するのがいいんじゃないのかなというふうに思います。

司会

なるほど。私も会社に入ったときに言われましたよ、「3年間は頑張りなさい」と。そしたら12年も頑張れちゃいましたよ。

ここで会場の皆さんにもちょっとお話を伺ってみたいと思いますが、よっちゃん。どなたか質問のある学生さんがいらっしゃったら。

よっちゃん

じゃあ学生から選んでみましょうね。

きょう、いらっしゃっているパネリストに質問のある方。

ウチナーンチュよ、ハジカサーしないでいいよ。

このくらいでもいいですよ、手を挙げてください。いらっしゃいますか。

司会

安永さんがおっしゃっていたとおりになりましたね。

よっちゃん

ハジカサーしないでいいですよ、せっかくですよ。もったいない。何で僕が来たら下向くか。

司会

きょう、よっちゃんこんなにかわいいのにな。

よっちゃん

だからよ。わざとでしょう。いらっしゃいますか。

ただいま就職活動中の方、いますか。

いないばー。絶対いる。はー。

レポートさせてちょっとだけ、きょうこれが仕事よ。僕なんか仕事しないと給料もらえないよ。ちょっとガワー、ユンタクするだけですよ。

はい、いらっしゃいませんか。じゃあじゃあごめんなさいね。もうこれは運だと思って。僕に見つかったが最後。

こんにちは、お名前は。伊保さん。

今、学生ですか。それとも専門学校生ですか。

伊保さん

日経です。

よっちゃん

将来はどんな仕事をしようというのがあります。

伊保さん

あまり、大きくしか考えていません。

よっちゃん

大きな目標でもいいですから、教えてください。

伊保さん

税理士事務所とか、行きたいなど。

よっちゃん

税理士事務所、ということは、今専門でいろんなそれに向かってのいろんな資格とかも。

伊保さん

そうですね、簿記の勉強をしています。

よっちゃん

ウリヒャー、エッ、いさお。ヤー簿記とかわからんだろう。貸借対照表だよ、わかるかや。難しいよね。

伊保さん

難しいですね。

よっちゃん

でもやはり、そういう夢があると、資格を取るのも難儀ではないですか。

伊保さん

そうですね。やはり夢がないと向かっていけないので。自分も最初大学にいて、ちょ

っと大学にいても夢がないと思ってやめて、専門に入ったので。

よっちゃん

最初は大学生だったんですか。それから自分の目標がここだなと思ったときには、大学をやめて、専門学校にまた自分で行ったと。勇気ある行動。すばらしい。

せっかくですから、きょう4人いらっしゃいますので、どなたかに質問したいことがあれば、ぜひ聞かせてください。

伊保さん

それぞれ皆さんに聞きたいんですけども、目標があったら、それに向かってどういうふうにやっていけばいいのかなと。

よっちゃん

今、向かっているけど、さらに明確に目標に進んでいくために、どういうことをしたほうがいいかということをお聞きしたいそうなのですが、いかがでしょう。

司会

はい、わかりました。

それでは、難しいかとは思いますが、一言ずつお願いできますか。ちょっと時間も実は迫ってきてしましまして。目標に邁進していくためには、何が必要か。安永さんからお願いします。

ジュン安永

大きな目標というのは、もちろん大事だと思いますけれども、いきなり大きな目標をつくる。探すというのもすごい大変だと思うし。私なんかでもやはり最初から大きな目標があったわけではなくて、沖縄に来てこうやって勝ったおかげで、「じゃあ沖縄を元気にしてやろう」とか、偉そうなことを思うようになりましてけれども、1年前ははなはだそんな「何、ばかなことっているの最下位のチームが」って言われる状況だったので、言えなかった。でも今だったら沖縄を、私たちは明るいニュースだと思っているので、元気にできるって信じている。でも、最初そこまで目標がいくまでに、やはりもっと細かいところ。自分たちで達成できることを小さくかみ砕いて。まず小さな目標を成功したという自信と。またホップ、ステップ、ジャンプじゃないけれども、少しずつできるんだというのを、やはりかみ砕いて、小さくしてやって行って、少しずつの喜びで最後に大きな喜びがどーんとくるというぐらいのほうが、夢というのとか、目標というのは達成しやすいのかなと思います。

砂川恵理歌

難しいですね。ごめんね、難しいことは私は言えないからさ。いっぱい悩んで、いっぱいしゃべったらいいと思う、人に。話したら近づいてくるよ、やりたいことは。

司会

あるかもしれませんね。また新しいアドバイスももらえるかもしれませんね。

屋比久友秀

はい。私の場合は、その目標をまず分断します。いつまでに何をどうやってやるのかというのをきちん書いておきます。それによって計画を立てますよね。多分計画どおりうまくいかないんです。それでいいんです。計画どおりうまくいかなかったときに、もう1回計画を見直して、再度計画を立てていくと。これP D C Aというんですけれども、計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(act)というのがあるんですが、それを回していく。それをやっていけば、必ず目標に近づくというふうになります。そういうことをやってください。

司会

すごい、何か理系っぽい、理路整然とした答えでした。ありがとうございます。

白木さんどうですか。

白木享

皆さんが答え言われたので、一緒ですかみたいな感じなんですけれども。私は目標があったら、そのための条件だけをはっきりさせておけばいいんじゃないですか。だから、税理士になりたいわけですから、税理士になるための条件ですよ。勉強をこれだけの時間しないといけないとかという条件を明確にしておけば、多分、達成できると思います。

司会

条件を明確にする。とても皆さん役に立つ一言ずつだったんじゃないかと思います。役立ててください。

ちょっとお時間なんですけど、大丈夫でしょうか。と思ったら聞く人がいなくなっちゃった、もう一人いっちゃいましょう。お願いします。

いさおさん

こちらでかっこいいにーに見つけたので、ちょっと話を聞いてみましょうね。

まずお名前から。

石原さん

石原です。

いさおさん

石原さんは今、なりたい仕事とかありますか。

石原さん

特にはないです。

いさおさん

ないわけ。きょう見つけましょうね。じゃあこれといって目指している仕事とか、就職活動とか今、なさっています。

石原さん

別にしていません。

いさおさん

していない。皆さんでやりたい夢、見つけてあげましょうね。

お笑いだったらいいですよ。

せっかくなので、パネリストの方に質問があれば、お願いしたいんですけども。

石原さん

安永さんに聞きたいんですけども、ニュージャージー・ネットを退団するとき、何と言って退団したんですか。

ジュン安永

私が教えてもらったのが、アメリカというのは、すごいヘッドハンティングという、みんなあまり漠然としてわからないかもわかりませんが、会社から会社に飛び移るんですね。ぽんぽんぽんぽん。移るたびに給料が上がっていく。一つの会社では、日本みたいに終身雇用とかではあまりないので、会社が変わらないと、キャリアアップしないんですけども、そういうときに、何が一番大事かという、ネットワーク、自分の人づきあいというのが大事なんで、飛ぶ鳥あとを濁さずということで、まずニュージャージーでお世話になった人たちに、いつまでも友達、あるいは自分が助けてほしくなったら、いつでも助けてもらえるような関係でいれるようにしていくという感じで、新しい夢があると、「日本に新しい夢を見つけたんで行きます」ということを伝えてやめました。

司会

おもしろい質問でしたね。今の。早く夢も見つかるといいですね。

いさおさん

そうですね、早く夢持ちましょうね。

恵理歌さんに結婚しようとか言わないでいいですか。

こちらからは以上です。

司会

パネリストの皆さんへの質問もどうもありがとうございました。皆さん。

さてそれでは、早いもので本当にお時間が来てしましまして、申しわけないんですが、もっとお話を伺いところですが、また会場の皆さんに一言ずつメッセージをいただければと思います。今度は白木さんのほうからお願いします。

白木享

天職を見つけることも重要なんですけども、やはり夢を持つことが重要だと思っているので、何か小さな夢でもいいので、夢を持って、その夢に向かっていくために仕事をするのもいいので、ぜひ夢を持ってください、以上です。

司会

ありがとうございます。そして屋比久さん。

屋比久友秀

私はですね、ぜひ皆さんにお願いしたいのは、ぜひリスクをとると。リスクをとってチャレンジしていくというのを挑戦してみしてほしいと。チャレンジするというのを、

皆さんにメッセージとしておくりたいと思います。

司会

はい、力強いメッセージでした。ありがとうございます。そして砂川さん。

砂川恵理歌

本当に夢を持つということは、逆に自分の好きなことの中に含まれていたらいいなと思うんですね。その中から自分ができることを探して行ってほしいなと思います。

司会

そういう見つけ方もあるかもしれませんね。どの仕事に就こうじゃなくて、自分は何が好きかというところから出発してみてもいいかもしれませんね。

砂川恵理歌

できることをそこから見つけていくと、広がって行って。そしたら長く続けられるんじゃないかと思います。

最後に、みんなでグッジョブ運動のこれが、私は宮古島出身なんですけれども、宮古島のズミというあれと一緒になんです。どうしても言いたかった。だから最後にみんなで何かやるときに、みんなでグッジョブ運動ズミって言いたいなど。後でよろしく。

司会

実は後であるんです。ちょっと知事と相談してみます。そして安永さん、どうでしょう。

ジュン安永

そうですね、やはりみんな個性があるので、人って一人ずつあって、やはり人間だし、みんなと一緒に働いたりとかというのもあるけれども、人それぞれというのは、やはり大切に、自分は何だろうとか、いろんなことを考えて。一つずつ、考えること、いろんなことがあると思うんです、何でこんなところに自分は座っていなければいけないんだろう。どうやったらこの会場のライトが熱くなくて、明るくなるんだろうとか。いろんなことを考えることがあると思うんです。そういうのを考えて、日々細かくでもいいから、自分でいろんなことに気がつくような暮らし方をしてもらって、その中でやはり、自分が頑張っているというのを、楽しくてしょうがないので、私は自分でいつも言い聞かせているのは、「Don't be (ドント ビー) one of them (ワン オブ ゼン)」と言うんですけれども、Don't be は、何々になるな。one of them というのは、みんなの中のたった一つになるなという意味で、私はやはり自分一人、自分は自分で輝いていると思いたい。そう思っていつも生きているので、みんなもやはり仕事というのはとても大事なことだと思うし、それをどういうふうに自分の人生と絡めて行ってやっていくか。私みたいな年になったら、若いときはよかったですけれども、スポーツだけでよかったですけれども、逆に親孝行したいとか、地元に貢献したいとか、日本に貢献したいとか、バスケットボールとかスポーツとか、いろんなことを思うようになるので、いろんなことを皆さんもここに座っている人たちも、20年後、私の年になった

ら思うようになると思うので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

司会

はい、きょうはたくさん熱いメッセージをいただきました皆さんの胸に、ちょっとでも刻まれたらいいなと思います。パネリストの皆さんにどうぞ今一度、大きな拍手をお贈りください。皆さん、本当に貴重なメッセージ、ありがとうございました。